

平成28年度施策評価調書

整理番号	30
評価担当課	教育部 学校教育課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	教育内容の充実(5-3-2)		
総合計画の位置づけ	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり(教育・文化・スポーツ)
	主要施策	3	小中学校教育の充実

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するため、基礎・基本を重視した学力の向上、個々の可能性を引き出す個性を重視した教育を推進し、児童生徒が「生きる力」を育むことができる教育活動を展開する。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	確かな学力の向上など「生きる力」の育成のために、授業の指導内容や方法改善を図ったり、新しい時代に対応した国際理解教育や情報教育の充実に努めている
施策の課題	子どもたちが社会で自立して生きていくために必要な基礎学力や人間としての生き方への自覚、豊かな道徳性を育成するために、教育改善プロジェクト委員会を中心に各種施策を推進していく必要がある

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H25	H26	H27	目標年度(年度)
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
B	情報化の推進など、一部財源の確保が必要となる事業もあるが、概ね必要とされる教育活動は実施できていると考える	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

今後も子どもたちを取り巻く環境を考慮しながら、児童生徒に対し必要な各種教育活動を展開していく

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H27年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H27決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	放課後子ども教室事業	安全・安心な活動拠点を設け、勉強・文化活動の取組を行う	4,116	a	a	b	b	b	B	B	B
2	外国青年(外国語指導助手)招致事業	英語圏の外国人を招致し、各小中学校に派遣し、生きた英語や外国文化を学	11,851	a	a	a	a	a	A	A	A
3	小学校国際理解教育推進事業	ALTが市内各小学校に出向き、児童へ外国語に親しむ活動を行う	799	a	a	a	a	a	A	A	A

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	30	枝番	1
評価担当者・係・職名・氏名	学校教育課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	放課後子ども教室事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	3	小中学校教育の充実
		基本事業	2	教育内容の充実
		実施計画事業	1	確かな学力の向上など「生きる力」の育成

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、勉強・文化活動の取組をすることにより、心豊かで健やかな環境づくりを行う			
対象(何を又は誰を)	市内小中学生			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	数研や英検等の検定問題やNIE教室など、学校では学習しないような取組を行う			
意図(どのような成果を期待しているか)	科学教室など、学校では学べない体験をすることにより、自ら学ぼうとする意識が芽生えてくる			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	24年度	終期設定	有(終期年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 小学校2教室	人	目標	40	40	40	40	
			実績	24	32	28	37	
	2 中学校2教室	人	目標	40	40	40	40	
			実績	7	10	9	8	
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳	
事業費	2,553	2,647	2,818	2,718	報酬 48千円 報償費 2,400千円 需用費 370千円	
国道支出金	1,002	881	881	881		
地方債						
その他	96	123	114	105		
一般財源	1,455	1,643	1,823	1,732		
人件費	1,337	1,326	1,298	1,249		
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244		
担当職員数	0.20	0.20	0.20	0.20		
総事業費	3,890	3,973	4,116	3,967		
対前年比(%)	—	102	104	96	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	125	95	111	88	
	活動指標2					
	活動指標3					

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	放課後の教育活動の一つであり、市が主体的に行うべきと考える。放課後の居場所づくりでもあり、塾などとは性格を異にする
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	意欲ある児童生徒が集まり、グレードアップする場となっており、それだけに保護者ニーズも高くなっている
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	中学生になると部活動との兼ね合いから、参加者が少なくなる傾向にある(せっかく小学校の時に定着してきた学習に対する姿勢が損なわれる懸念がある)
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	b	名寄地区と風連地区で実施しているが、交通手段の関係で農村部の児童生徒の参加が無い状況にある
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	放課後の居場所づくりという面では効果があり、また自ら学ぼうとする姿が醸成されてきている

5 1次評価

評価結果	理由	
B	放課後の居場所づくりや学ぼうとする意欲は向上してきているが、市街地区の児童生徒しか参加できない状況や中学生になると部活との関係から参加が難しくなっている状況にある	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
	取組自体は有意義なものであるが、上記のような問題点もあることから、開催時期や時間なども検討し取組を継続していく	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
B	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
B	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
B	1次評価のとおり

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	30	枝番	2
評価担当者・係・職名・氏名	学校教育課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	外国青年(外国語指導助手)招致事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	3	小中学校教育の充実
		基本事業	2	教育内容の充実
		実施計画事業	4	国際理解教育の充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	児童生徒を対象として、外国語に接する機会を提供するとともに、異文化に接し国際理解を深めることを目的とする			
対象(何を又は誰を)	市内小中学生			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	英語圏の外国人を招致し、各小中学校に派遣し、生きた英語や外国文化を学ぶ			
意図(どのような成果を期待しているか)	外国人と接してコミュニケーションの方法を学び、国際感覚を醸成する			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	H18 年度	終期設定	有 (終期 年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 市内小学校	校	目標	10	10	10	8	
			実績	10	10	10	8	
	2 市内中学校	校	目標	4	4	4	4	
			実績	4	4	4	4	
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳
事業費	8,963	9,904	9,904	9,904	報酬 7,680千円 共済費 1,069千円 旅費 411千円 備品購入費 200千円 負担金 544千円
人件費	2,005	1,989	1,947	1,873	
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244	
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30	
総事業費	10,968	11,893	11,851	11,777	
対前年比(%)	—	108	100	99	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	783	850	847	981
	活動指標2				
	活動指標3				

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

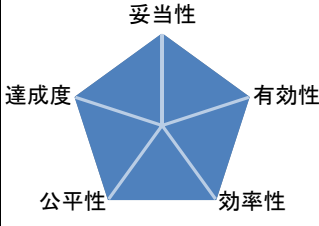
情勢の変化	
改善点	指摘事項 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	学校教育活動であり市が行う必要がある
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	配置しているALTを活用して実施するもので、人材の有効活用が図られている
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	過大なコストはかかっていない
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	全学校児童生徒を対象としており妥当な事業である
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	当然a判定の達成度である

5 1次評価

評価結果	理由	
A	児童生徒が国際感覚を身につけるためには必要な事業で、現状のまま継続していく	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成28年度事務事業評価調書

整理番号	30	枝番	3
評価担当者・係・職名・氏名	学校教育課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	小学校国際理解教育推進事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	3	小中学校教育の充実
		基本事業	2	教育内容の充実
		実施計画事業	4	国際理解教育の充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	児童を対象として、外国語に接する機会を提供するとともに、異文化に接し国際理解を深める			
対象(何を又は誰を)	市内小学校			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	ALTが市内小学校に出向き、児童へ外国語に親しむ活動を行う			
意図(どのような成果を期待しているか)	外国人と接して外国語を学び、コミュニケーションの方法を学ぶ			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	H18 年度	終期設定	有 (終期 年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H25	H26	H27	H28見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 市内小学校	校	目標	10	10	10	8	
			実績	10	10	10	8	
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H25決算	H26決算	H27決算	H28予算	平成27年度の事業費内訳
事業費	376	356	150	0	ALT2人分の人件費は招致事業で支弁 報償費 150千円
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	376	356	150	0	
人件費	668	663	649	624	
平均給与額	6,683	6,629	6,490	6,244	
担当職員数	0.10	0.10	0.10	0.10	
総事業費	1,044	1,019	799	624	
対前年比(%)	—	98	78	78	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	104	102	80	78
	活動指標2				
	活動指標3				

※H27及びH28年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

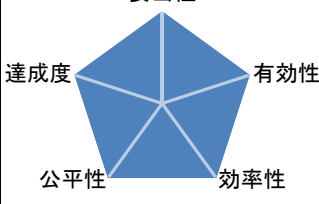
情勢の変化	平成23年度より市内のネイティブ・スピーカーを招致して外国語指導をしてきたが、平成28年度から小学校2校減少のため、ALT2名で対応する。
改善点	指摘事項 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	学校教育活動であり市が行う必要がある
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	配置しているALTを活用して実施するもので、人材の有効活用が図られている
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	過大なコストはかかっていない
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	全学校児童を対象としており妥当な事業である
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	当然a判定の達成度である

5 1次評価

評価結果	理由	
A	児童の国際理解教育は、教育課程に位置付けられている事項であり、現状のまま継続していく	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり